

サロン・あべの

<サロン・あべの>NO. 25 昭和63年 7月16日(土) 発行

<サロン・あべの>6月の出会い

「私のストレス解消法」

5月の<サロン・あべの>で、北田氏より「ストレスで、なんやろ」をテーマに、ストレスの輪郭についてお話を伺いました。今月はそれを基本にして、グッと身近かな自分達の「ストレスとその解消法」について、出席者の方々みんなで考えてみました。導入役として大島功、斉藤孝文、旭純子の三氏にパネラーをお願いしました。



大島功氏

「難しい学問的な話ではなく、自分の生活・生き方の中から起きるストレスについて、私なりの考えを話します。はっきり言って視力障害者（全盲）になってからストレスはありません。ストレスは解消出来たと思っ
ています。それ迄は、十数年前迄は一般的なサラリーマンの生活で、仕事関係・人間関係などでストレスを感じていましたが、見えなくなっ
てふっきた感じ
です。」

それよりも、二つの人生を歩めるという
か、普通の人に体験出来ない人生を送られ
るといふことに興味を持っています。目に
見えなくなっ
てから、やたら物・人にさわ
っても怒られなくなりました。その内女性
に迄手が伸びてさわられる？ 冗談ですが、
そこまでの気持になると、ストレスがある
のか、それで解消出来たのかは解らないが、
その見えない、解らないというストレスを
活力源として生きていくには、少々しんど
い。最後には倒れるのではないか、その前
にどうするか。負けん気でストレスをやっ
つけても、いつ倒れるか解らない緊張感
があると思うが、私は、本来からのIIのん気

者リでそれをあまり感じない。だから見えない方がストレスを感じないのではと思っ
ている。一人で生活しているの、食事・
掃除・洗濯等を気楽にしている。相手のこ
とを考えなくて、自分の満足度で過ごして
いる。

目明きと視力障害者(盲)、二つの経験
は、人の倍生きていることと考えている。

のんき坊主と言っても、時には怒りもハン
ディを持つ者にとっては活力となる。還暦
近くになっても母親は、口うるさく言うの
で親子ゲンカをよくする。しかし、これも
活力の一種、母親(七七才)孝行と考えて
もいます。この辺で・・・(メモより)

斉藤孝文氏

斉藤氏はCP、電動車イスで行動、発言は
文字板を使ってしています。

ぼくは、さきの大島さんのように、スト
レスを活力源にして生きることが出来ない。
まだ年が若いせいもあると思うが。しか
し、かえってストレスが有るからこそ、悩
みや葛藤が生れてくるのだと思う。人間は
誰しも悩みや心配ごとのくりかえして生き

ると思う。毎日楽しいことばかり続くと、
人間はだめになってしまふ恐れがある。ぼ
くは、親と一緒に住んでいるけど、毎日た
くさんのストレスを受ける。たとえば、食
事の時、すぐ食べた物をこぼしてしまう。
親からグチグチ言われるし、自分自身がな
さけなくなってしまう時がしばしばある。

ストレス解消法としては、この頃介護者
なしでもドンドン電動車イスで出ていける
から、気持の上でイライラすると出かける
事になっているが、出かけたなら、出かけたで
又、親から一言いわれる。夜あまり遅く帰
ってくるなど。ぼくは、もう三〇半ばのレ
ッキとした大人なのに…

ストレス解消法の二つ目は、健全者の皆
さんと話することだ。ほとんどのボラン
ティアの人は、人間的で優しい人ばかりな
ので、話をしても、楽しい。逆にぼく
は、大人であってもまだ世間知らずの面が
多いから、その健全者の人は、ぼくの介護
を通して、何んらかのプラスになっている
かどうか、ちょっと疑問だし、心配では
あるのだが…

(文字写し)

旭純子氏

雑誌やテレビの世界だけに満足して、外へ
出ようと思わない人。また外に出ようと言
われること自体がストレスになる人。など
いろいろなケースを挙げて重度障害者のス
トレスの感じ方もそれぞれ、と旭氏はい
う。

注:「こんなストレスもありますね
ん」と題して旭純子さんに寄稿して
頂いております。(三頁)

つづいてご出席の方がたから、いろい
ろなストレスとその解消法がさがれました。

〇七九才という歳で、自分の考えている時
間と行動が、体力の限界を感じて出来なく
なったり、追われる仕事や、続かなくなっ
て来た時、ストレスを感じる。

〇ボランティアで関係している人の相談を
受けているが、それが今ストレスとなって
悩んでいる。(相談されるのが)長いとき
あいなので、生活面や家庭内のこと迄にな
ってきているから、情が移って自分のこと

のように感じてくる。

○何かと感じる時は、肩こりや胃痛が症状として出てくる。そんな時、外へ出て好物のおすしを食べる。

○一人で外出出来なかった頃、家に居るとストレスが溜っていたが、自動車の運転免許を取ってからは、性格まで変わった。それ

迄は自分のカラにどじこもっていた。

○三〇才半ばで、親に色々と云われるのは、うっとろしいけど、無視している。私達障害者には、付きもんと思う。外に出ることがストレス解消法であるけれど、外に出てもストレスは受ける。ストレスと解消法は背中合わせ。自分のことを理解されない時は、ガマンしかない。自分の中で消して忘

れてしまおうかと思うが、一番の親とのストレス解消法はネコをかぶっていること。

○いらいらしてきたら、早口になってしまいが何を言っているのか解らないと云いケンカになったりする。そんな時は、買い物に出る。デパートやスーパーへ。

(出席一七人)

こんなストレスもありますねん

旭 純子

五月の出会いで、車イス使用者から「思うように外出できないからストレスをため易い」というお話がありました。

ハンディキャプトには、思い立ったらすぐ行動に移すことは、なかなか難しいことです。思い立っても、川足リが確保できなければ、イライラしながら家にどどまっていますということが多いです。その積み重ねが、生活経験の幅を狭くさせ、周囲の

人達に「障害者はこんなことも知らない……」等と言わせる原因になってしまうのだと思います。

ところで、全てのハンディキャプトが、川外出欲求リを持っているのかというと必ずしもそうとも云えないようです。

A子さんは、障害のため「物心ついてからほとんど、外出した覚えがない」人です

が「テレビ、雑誌、家族の話などで、外のことはよくわかるから外出したいと思わない」と云うのです。

記憶の中で、外出経験がないから実際の川外リがどんなにおもしろくて刺激的なところであるかわからない。

彼女は、外出をあきらめ切っているというのか、価値を見出し出していないのです。

又、こんなケースもあります。もう数年
年来、外出したことがないという男性。彼
にとつてのリ外リでの経験は、愉快なもの
ではなかったのでしょうか？ 今の彼にと
つては「外出しよう」と云われたり、手を
ひっぱられたりすることが返ってストレス
になるといふことの方です。

ストレスの感じ方は、人それぞれとい
いますが、正にその通りだと思いま

先日「二四時間営業の銭湯に泊まり込む
老人たち」を取材したテレビ番組で老女の
話がとても印象に残りました。

「私は病気で足が悪くなってから、茶わん
を洗うことですら、嫁が全てやってくれる
。七〇才までひとりで店をきりもりしてき
たのに、今ではもう家の中でも何の役にも
立たない。だから、ここに居る方が気を使
わなくていい」といふようなことです。

家族は良かれと思つて何から何までして
しまうことが、本人にとつてはますます「
役に立たない」と云われているようで、自
分の存在価値さえ疑問に思えてくる。

これはハンディキャプトの場合よくある
ことです。

ハンディキャプトの外出欲求はリ足リの
確保によつてある程度達成される。でも、
ひとたび外出すれば新たな多くのストレス
が待っていることも確かでしょう。外出先
で不愉快な思いをした経験は誰もが持つて
いることだと思つます。それでも、家へ帰れ
ば落ちつける自分のポストがあるなら、外
出することの楽しさをもっと、増すのでは
ないだろうか？ ふっと、そんなことを思
います。

集団の中で自分のいるポストが確立して
いるか否かによつて、人は自分の存在価値
を確認するようなどころがあります。多く
のハンディキャプトにとつての唯一のリ集
団リが家族であることを考えあわせると、
家庭の中で何の役割もポストも持たされな
いまま、ストレスに締めつけられながら生
活しているハンディキャプトが、いかに多
いかということも、考え直してみる必要が
あるように思つたのです。

おしらせ

八月のサロンは、「あべのカーニバル・
なんでも市」に出店参加します。

多くの方々との出会いを楽しみにしてい
ます。ぜひ、遊びがてらご来場下さい。

日時 昭和六三年八月二八日(日)

午後一時～九時

場所 府立工芸高校グラウンド(阿倍野区

役所裏)文の里一―四〇)

お願い

「なんでも市」で、販売できる品物のご

寄贈をよろしくお願ひいたします。

問い合わせ先 ☎〇六―六九一―一〇二八

(富田慶子)

日々のよろこび添えて

へサロン・あべのVに贈るリ灯

六月のカンパ合計二四〇〇円

ありがとうございました。

ストレス

一口にストレスといっても人それぞれに原因も違えば、症状も違い、その解消法も十人十色に違うことでしょう。

前号につづいて、皆さん方に「私のストレスと、その解消法」をお聞きしてみました。

いかに生きべきかを確立して解消

出口正敏

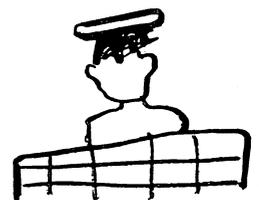


を待つ」の心境と「天を敬い、人を愛す」の心で、曲がりなりに生きてきました。ましてや、今の生活も十分でないにしても、自分なりに発散するものをもっていますので素直になれます。

何か、諦めの境地にあるように受取られるかも知れませんが、そうではなくて、勉強もするし、人のため、世のためと考えるのは勿論のことですが、結局、自分自身が、先ず、いかに生きべきかを確立する以外には、ストレス解消の方法はないと信じています。

テーマの、ストレスの話ですが、人生なるようにしかならんものだと悟れば強いものです。私は薩摩出身で、幼少の頃から、西郷 南洲先生を尊崇しております、貧乏であった私達は、「人事を尽くして天命

今は昔、真面目が給料を貰っているようなときの話。



月曜から土曜まで、出社がおくれており、気がせいで、ほとんど朝食を食べる余裕がない。こんな生活をしていると、たまの日曜日の朝でも、平日の朝のように気がせいでくる。ビール一杯でも飲み、今日は出社しなくてもいいんだ、と自分に言い聞かせないと、気が落ち着かない。

顔も洗わず、髭もあたらず、ダラダラして銭湯へ行く。戻ってグダグダするうち、下宿のおばさんが夕餉の支度に取りかゝる音が下から聞えてくる。これを潮に場末の三流館へ。

いま思えば、この怠惰な一日があることによって、ストレスなる言葉すらなかった時代のストレスとやらの悩まされることなく、無意識に生活のリズムが取れていたのでは……

時が解消

「フラインタウン」発行者

梶谷 終 一



ストレスの中で一番厄介なのが人間関係

「バカね」を考える

「バカね」と言われたひとがいるとしよう。言われたひとは、あなたに「私はきのう『バカね』と言われた」と言うとしたら、そのとき、あなたはどうか答えるだろうか。

これは難しい問題である。いや、難しいというよりは答えようがない問題かもしれない。というのは、「バカね」という言葉を言われただけでは、それが何を意味しているかがわからないからである。いったい

だと私は思っている。何分相手のいることだけに一朝一夕にストレスは解消してくれないから。

ある人曰くに無視をすればいいと。しかし、意識して無視をするということは返って相手の印象の中で増幅するようでストレス解消にはならない。私は一昨次のようなことを企みた。それは相手に会う前、少しアルコールを飲み、ほろ酔い気分であうということである。確かに、酔いのお陰で相手のいやな面は希薄されるが、酔い覚めのむなしさはやはり残る。そこで私の解消法であるが、私はとにかく相手を考えな

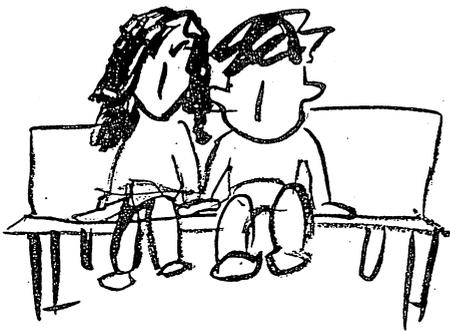
「バカね」という言葉が、どんな状況で、どんな顔をして、どんな声の調子で、どんな言葉の後に続いて言われたのか、さっぱりわからないからである。

「バカね」は、相手を軽蔑するときに使われる言葉である。「バカね」と言って、相手を見下しているのである。

しかし、女性が恋人である男性に向かつて、やさしく「バカね」と言う場合もある。そのときには、「バカね」という言葉のなかに、相手を許したり励ましたりする気持ちがかめられている。

世間で使われている「バカね」は、この

いように専念している。その一つの方法は、出来るだけ多くの友人にいやなことには一切触れずに楽しみのある内容の手紙を書くのである。その二は、人の多く集る会合に出席し、この中で話の合う人と思いい切り議題等について語りあうのである。そして、その会合での自分のウエイトを大きくしていくのである。その三は、やむなくストレス対象の相手に合う時は、数人の友を連れて合うのである。無論相手を無視するような態度で。以上の対策で何もしないよりは少しは解消されるようであるが、やはり最後は時が解決してくれることが多い。



二つの両極端の「バカね」の中間のようなものだろう。「バカね」は、それほどあまい言葉である。

同じことは「遅かったね」という言葉にも当てはまる。待ち合わせの時間に遅れたとき、待つていたひとに「遅かったね」と言われたとする。すると、それは「なにをぐずぐずしていたんだ」という「叱責」の意味にとることもできるし、「なにかあったのか心配したよ」という「思いやり」の意味にとることもできる。「遅かったね」とも「バカね」と同様、あまい言葉である。

そのように考えていくと、あまい言葉は非常に多いことに気付く。「仕事はちゃんとやってるかい」は、仕事の遅れを責めているようにも聞こえるし、仕事に対する励ましのようにも聞こえる。また、単なる「あいさつ」かもしれない。「元気がないね」も「無理はしなくていいから」も「しっかりしなさい」も、みんな、どうにでもとれる言葉なのである。

つまり、よくよく考えてみれば、日本語の意味はすべて知っていても、その言葉の意味がわかるとは限らないのである。「バカね」という意味は、辞書を調べてもわからない。「バカね」は、どういう意味にもとれるあまい言葉なのである。しかし重要なことは、「バカね」という言葉に託された話し手の意味そのものは、あまいなものではないということである。

人間関係が苦手だということと、あるいは自分ではそう思っていないけれども人間関係が

なかなかつくれないひとの話を聞いていると、「バカね」の意味を正確にとらえきれないということが原因のひとつになつていくようだ。もちろん「バカね」だけではない。あらゆる言葉の、辞書に書いてある意味ではなく、話し手が伝えている意味をつかまえることができない。そのために人間関係がうまくいかないのである。

「バカね」の意味は、話し手の表情や声の調子や、そのときの状況などによって判断するしかない。しかし、人間関係の苦手なひととは、例えば、Aさんなら「バカね」は軽蔑する意味で、Bさんなら励ます意味で使うと、初めから分けてしまっているようである。したがって、彼等がひとと出会ったときにまず考えるのは、そのひとが自分の「味方」か「敵」かということであつて、「味方」なら「バカね」はすべて励ましの言葉であるし、「敵」なら「バカね」はすべて軽蔑の意味なのだ決めてしまふ。そういうわけだから「敵」とは全くうまくいかないし、「味方」とも関係は長続きしないのである。

これは「人物」による「バカね」の意味の分類であるが、ひとによっては「分野」によつて分けることもある。つまり学業に関することで「バカね」と言われると「軽蔑」であるし、日常のことで、例えば、お金を落としたということで「バカね」と言われるとそれは「励まし」なのである。

「人物」や「分野」で判断すれば、「バカね」の意味は、ある程度わかるものである。しかし、それは「ある程度」なので

あつて、ふかい人間のつきあいになると、それでは対応できなくなる。ハネムーン時代は、すべての「バカね」を「許し」の意味にとつてもいいかもしれないが、夫婦になつて家庭を築いていくとうとうときには、「叱責」の意味をもつ「バカね」を受けとめなくてはならない。それができなければ、夫婦の対話には限界がある。

要するに、人間関係をつくれないうちは「バカね」という言葉に託された話し手の微妙な意味を感じるだけの「感受性」が欠けているようである。

そしてさらに重要なことは、ひとから言われた「バカね」の意味を理解できないということとは、自分から相手に「バカね」を言うときに微妙な意味を含ませて言うことができないうことである。

そこで、そのようなひとは、周囲から「何を考えているのかわからないひと」と言われる。「何を考えているのかわからない」と言われるひとは、決して無口なひとばかりであるとは限らない。多弁であつても、そこに意味を含めることができないから、相手に伝わらない。そのひとが「バカね」と言つても、言われた相手は、それが励ましなのか蔑視の表現なのか判断できないのである。

子供たちの「ひとり遊び」が多くなり、友達は競争相手でしかないという受験競争のなかで育ってきたひとが増えてきたいまの社会で、「ことば」に対する「感受性」が、これからはますます問われてくるような気がするのである。

(知)

自立

(9)

「自立」をテーマにしたこの連載は、今回で終了します。

連載「自立」について

河合恵子

自立をテーマにしたこの連載は昨年十一月のサロン・あべの第十七号から始まり、先月の第二十四号まで、八人のひとびとがこのページに「自立」について書いてくださった。

第一回では二十四時間介護を必要とする重度障害者の立場から、いずれ自立か施設かの選択の問題が訪れるであろうが、施設より地域で生きたいという斉藤孝文さん。そして山本篤江さんは人に手伝ってもらわない生活への憧れと家族の理解を得ることの難しさや、内面的な自立を目指すことについて書



かれた。

第二回の旭純子さんはハンディを持ったひとびとの自立への鍵についてそれは「親がいなくなったら、自分はどうするのか？どうしたいのか？」という意識づけであり、「そのためにじぶんがしなければならぬことは何か？」を考えることにつながると述べ、ハンディを持った人がじぶんのライフサイクルにに応じて、ある時は在宅・地域で、またある時は施設・病院でと自ら選択できる社会であってほしい。そして家庭内や地域でこの問題を避けずに話し

合える土壌が必要だと提言された。

第三回はハンディを肥しに、テーマとして職業的自立をなし、常に社会に広く目を向ける辻本輝子さん。「書くこと」に自らの目的を見いだした加納みずさんは第四回に登場。

彼の帰りを食事の用意をして、明るい家に「おかえり」と大きな声で迎えられたら・・・といういつかふっと思ったことが現実になったのは第五回の南光仁子さんでその結婚にいたる経緯が記された。

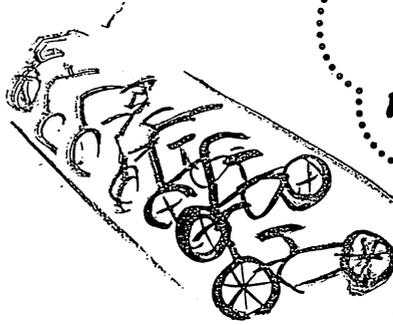
第六回、七回は火曜日は「ニッティングサロン友」で手編物、木曜日はワipro、金曜日はエアロビクスそして冬はスキーとさまざまなものに挑戦していく中西利香さん。

第八回ではセルフ社代表の井上憲一さんが、法律面での自立を「能力を活用して社会経済活動に参加すること」ととらえると自立イコール更正をさすことになるが、これがはたして障害者の本当の自立になるのかと疑問を投げかけられた。

このように「自立」・・・この言葉にはひとそれぞれのおもいがある。しかし、「自立とは今、自分自身の出来る最大の事を見つけ出し、それを実行していこうとする姿勢であり、努力である」と捉えた加納さんのように、本当に心から「私、輝いてます」といいたいものであると思う。

なんとか
してやらな

大島 功



アベノ地域に限らず都市全体の問題として、自動車及び自転車の不法駐車が目にする昨今ではある。障害者の歩行は、もとより、ひろく一般の人達にとっても迷惑なことだ。一般のお母さん達にしても乳母車では、通れないはずだ。身近な西田辺周辺もしくは、その裏通り「庚申街道」や、周辺の路上の駐車違反は甚だしい。

とに角地下鉄西田辺を出て、あびこ筋歩道上の自転車の放置には私達障害者にとっても、とても一人では歩けない。盲人である筆者にとってこのへんは、常に所用上出掛けるのだが、必ず一度や二度、自転車のハ

ンドルや荷台にぶち当たる。甚だしい時には、当たった自転車が数台倒棋倒しになることもしばしばである。一台ずつ元へ戻すにも簡単にいかない始末。まゝよとばかりそのまゝ置き去りにする。

長い物に巻かれる式で何も言わないで、おこうなど、引っ込み思案は捨てて改善を訴えたいものである。現に、一、二度アベノ警察へ申し入れをしたこともあるが、何せ一人、二人の力では、ていよくあしらわれる程度。住民の皆様、互いにもっと力を合わせましょう。



国体のプログラムにはじめて登場する電動車イスのスラロームに出場を決意された山本篤江さんに「私の京都国体」を折りにふれ、いろいろなことを書いていただきます。

山本 篤江

私の京都国体(1)

「国体」私にとって、まるで関係のない出来事の一つでした。それが、今年から電動車椅子のスラロームが、競技の一つに入ったのです。大阪市の大会は、三年前から取り入れられていたのですが、なにしろ、私にとっても、大会本部にしても、初めての試みですので、見当も付きません。

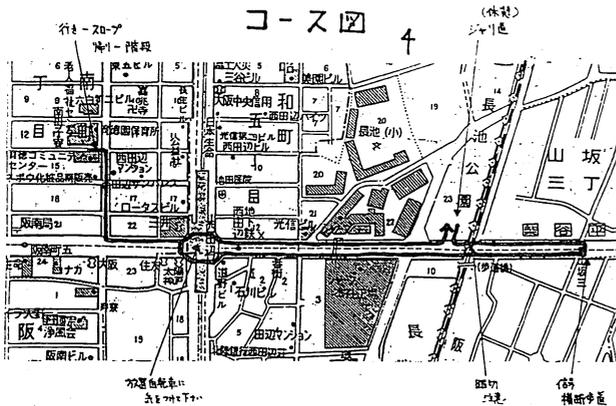
電動車椅子のことですので、あまり細かい動きはできませんが、それなりに難しいです。十月二七日から三〇日までです。

一緒に行く人と「一生のうちで国体に、行けるなんて思わなかったね。」

今は、スポーツセンターに時間があれば、練習に行っています。大会の雰囲気は、凄いいものだと聞いています。どうにかしてあげられないように、それと緊張が出ないように、しなければいけないと思っています。成績がよければ、デカデカとサロン紙に載せていただきます。

あべのボランティア・ビューローの
「ボランティアのつどい」に参加

六月二十五日(土)午後一時三〇分〜四時、あべのボランティア・ビューロー関係のボランティアの方々の交流会と学習会をかねた「ボランティアのつどい」が育徳コミュ



太線のコースを介助練習

THE DEAF MUTE

15

旭 純子



手話通訳をめぐる問題点

手話は視覚言語であり、音声語とは構造体系を異にしている。その特徴は

1. 助詞がないこと・・・語と語の関係が不明瞭になりやすい

2. 手話の多義性・・・一対一対応で音声語と結びつかず、ある手話がいくつかの日本語に対応したり、またその逆もある。

これらの問題点は、口語法を併用することによって解決されることも多いが、ろうあ者は話し手の話の内容を通

訳を介してしか捉えられないから、いかにわかりやすく、しかも正確に伝えるかは通訳者の技量と資質に依る面が大きくなる。また、手話の多義性に関連して言えることは、手話は発展途上の言葉であることを考え併せて、新しい手話の開発と普及に努める必要がある。

つぎに手話奉仕員養成に関する問題として養成講座の内容、期間のが不十分な点があげられる。大阪では市・府併せて七コースの講座が開かれ、経験や技術に合わせたクラス編成を行っているが、一コース六ヶ月間のいわゆるところてん方式で上級コースを終了しても通訳が可能なほどに熟達するものは少数である。週一回で一年半位の期間では基礎的学習に終わることが多く、地域のサークルでのろうあ者との交流を通して、「生の手話」に触れることが重要であるのに、その必要性を理解していない講習生も多い。講座内容も時間的な制約もあり、手話技術の伝授に終始して、ろうあ問題の詳細や福祉的理論面に欠ける傾向がある。

ニティーセンター研修室で開催された。

この月のテーマは「車イスの介助」。

まず、テキストで基本を学習した後、出席のボランティアなどおし車イスに交代で試乗しながら雨上がりの街へ出て、介助の練習をした。サロン・あべのよりの参加は、旭、上平、河合、原田、福西、山本、富田の七名でした。

シャysonの会

七月九日(土)午後二時～四時COOP

共益社生活文化館(住吉区万代東一―三―二)四階ホールにおいて、麻生夏代とシャyson仲間が集いコンサート・パリ祭によせてリが開催された。急なご招待だったので、近くの方々しか声をかけられなかったが「パリ祭」「パリ野郎」「詩人の魂」「バラ色の人生」「ラ・メール」「ろくでなし」「ラストダンス」等、うっとりとした音楽を、サロン仲間八名が観賞した。

「雨あがりのギンヤンマたち」

著者：牧 口 一 二
絵：吉 田 たろう
明石書店 定価1600円



小学生との無邪気な対話から障害者の姿を浮きぼりにして「ちがうことこそばんざい」と牧口氏初の書きおろし。たろう氏の愉快なさし絵と共に楽しんでいただけ一冊。ご希望の方は、<サロン・あべの>迄どうぞ。



編集後記

各々に大なり小なりストレスはあるが、それがあればこそ、乗り越える努力もし、忘れる知恵も働かせ、次のステップへの活力となるようです。ストレスは早い目に手を打つのが、一番良いようです。外出、外食お買い物等。自分のカラにとじこもるのが一番のストレス発生法かもしれません。「オッペルと象」の象のように、その行為に時間というカセが付くと、友の助けを得て逃げ出すのが最良の道かも…ね。(K)

お茶受けを小川様、中西様より頂きました。ありがとうございました。

<サロン・あべの>第25号

発行日 昭和63年 7月16日(土)
発行・編集<サロン・あべの>運営委員会
[大阪市阿倍野区阪南町6-3-26
電話(06)691-1028富田慶子]
印刷 セルフ社 電話(06)652-0337
[阿倍野区阿倍野筋4-18-19]
定 価 ￥60.

あの「あべの・カーニバル」が 今年も8月28日(1~9時)
工芸高校グラウンドにやって来ます。
みなさんと いっしょに参加したいとわがまをいっております。
ご協力ください。

物品を寄贈してくれはる人

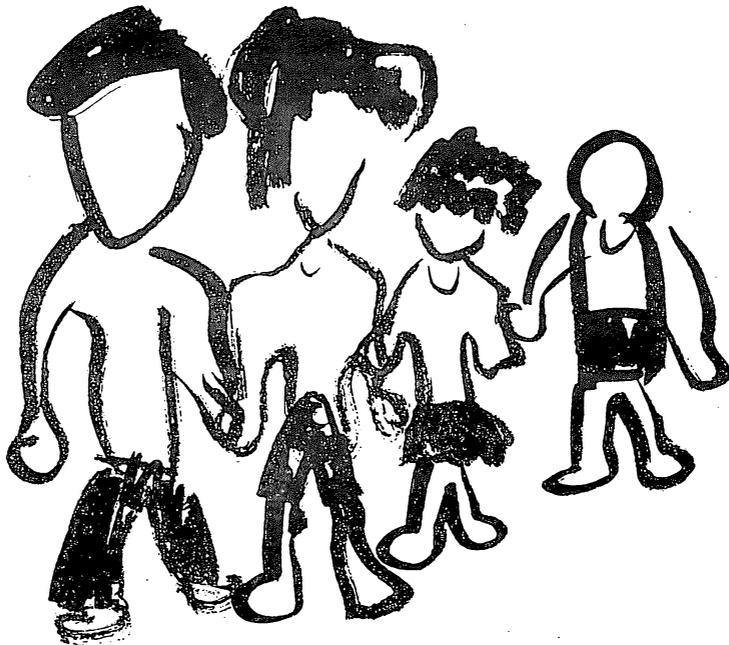
準備を手伝ってくれはる人

売りにきてくれはる人

買いに来てくれはる人

気持をひとつにして「バザー」をつくってくれはるこんな人たちを
さがしています。しんどいと思うけど みんなの笑顔に会えるのを
たのしみに協力してください。

求ム！ 協力してくれはる人



◎お問い合わせ、寄贈物品の持って来てくれはるところは

| | | |
|--------------|-----------------|-----------|
| 井上憲一 (せいの 社) | 阿倍野区阿倍野筋4-18-7. | ☎652-0337 |
| 大島 功 (おほしま) | 々 旭町1-4-26. | ☎641-1598 |
| 斉藤孝文 | 々 文の里4-21-7. | ☎621-4086 |
| 辻本輝子 | 々 阪南町1-40-5 | ☎621-2241 |
| 冨田慶子 | 々 阪南町6-3-26 | ☎691-1028 |
| 中原友喜 | 々 丸山通2-10-6 | ☎652-1208 |

ぜひたくをいゝますが、古本 古着など、ご使用になったもの、および
なまものは ご遠慮させていただきます。

<サロン・あべの>運営委員会